

課題読みは製図試験で**最も重要**なものである(読み間違えはランクⅣへ直結)。  
また、試験時間6時間30分に対して、エスキス、作図、記述及び見直しの時間を考慮すると、この課題読みに掛けられる時間は、**15分程度**が妥当である。最も重要なのに15分程度しか掛けられないと不安になるが、この課題読みは、それほど難しいものではない。その最大の理由が、毎年ほぼ同じ**定型文**となっているからである。この定型文を理解して、定型文との**相違点をチェック**するような読み方をすれば、短時間に正しく課題読みができるようになる(読み落としもなくなる)。

ここでは、**課題文全体**がどのようなになっているか、15分程度で課題文を読む場合の**チェックの仕方**をイメージとして掴んで頂きたい。なお、定型文を理解するには、下記他の講座も併せて読んで頂くと理解が高まる。特に、下記③の過去問の項目別分析は、課題文を項目別に完璧に理解できるようになるので、試験を受けるにあたり検討すべき必須事項と考えている。

- ① 無料講座:5章 2時間エスキス完了法 …この2時間の中には課題読みの時間も含まれる
- ② 会員講座:1章 課題読み解説(応用編) …h26 試験課題「温浴施設のある道の駅」で解説
- ③ 会員講座:過去問の項目別分析(H21～H27) …過去問全ての課題を項目別に分けて分析解説

## 1章 課題文の構成

課題文は、下図のような構成となっている(ほぼ毎年同じ)。  
大きな構成として、「**I.設計条件**」と「**II.要求図書**」に分かれ、更に各項目ごとに記載されている。

### 設計課題 「\*\*\*\*\*」

#### I. 設計条件

計画の概要

#### 1. 敷地及び周辺条件

敷地条件(建ぺい率など)

敷地図

#### 2. 建築物

建物条件(要求室など)

#### 3. その他の施設等

建物以外の条件

#### 4. 計画に当たっての留意事項

留意すべき重要事項

#### II. 要求図書

##### 1. 要求図書(答案用紙Ⅰに記入)

作図の特記事項

##### 2. 面積表(答案用紙Ⅰに記入)

面積表の記入条件

##### 3. 計画の要点等(答案用紙Ⅱに記入)

記述の課題

課題文の各項目の概要は、下記の通りである。

## I. 設計条件

設計課題に関する計画全体の概要が書いている。

### 1. 敷地及び周辺条件

敷地の形状、接道条件、周辺状況等について「敷地図」が示され、建ぺい率などの制限が書いている。

### 2. 建築物

建築物の計画する構造、床面積、要求室の条件が書いている。

### 3. その他の施設等

建築物以外の計画する要求事項が書いている。

### 4. 計画に当たっての留意事項

計画する建築、構造、設備の留意事項が書いている。

## II. 要求図書

### 1. 要求図書(答案用紙 I に記入)

作図すべき1階平面図兼配置図、2階平面図、断面図、2階梁伏図の条件が書いている。

### 2. 面積表(答案用紙 I に記入)

計算すべき面積表の条件が書いている。

### 3. 計画の要点等(答案用紙 II に記入)

記述すべき計画の要点の課題が書いている。

## 2章 課題文のチェックの仕方

試験開始と同時に、課題文を15分程度で読むこととなるが、その場合、**チェック**をしながら課題文を読むと間違いが起りにくくなる。チェックの仕方は、色々あるが、研究会が推奨するのは、下記方法である。

マーカーペンを何色も使い分けてチェックされる場合も考えられるが、色分けによるマーカーペンの持替え時間と、マーカーのし過ぎにより見にくくなる等の理由から、あまりお勧めできない。課題文のチェックの目的は、見落としがないこと、勘違いがないこと、時間内に確実に課題の要求事項を全て図面に書きこむことの確認である。

研究会の推奨は、最初の15分の課題読みでは、「建ぺい率、アプローチ、動線、眺望、要注意文へのアンダーライン」を引くために**赤ボールペン**でチェックして、その後、1/1000エスキス完了時に見落とし防止の意味から**黄色マーカー**で全要求室や諸条件の確認チェックをし、作図完了時に最終確認で全てのチェックを**赤色マーカー**(黄色マーカーの上書き込む)とする。

### 【時間配分とチェック箇所】

課題文は、研究会推奨の下記時間配分(試験11:00~17:30)の中で**3回チェック**する。課題文は重要なので、試験中は、3回チェックして確実にミス無くする(合格するための必要条件)。この章の解説は、「課題読み」なので、下記①に該当するが、チェックは3回必要であることから、③と⑥についても併せて解説する。

- ① 11:00~11:15 課題読み(15分) ⇒**赤ボールペン**でチェック(下記**チェック①**参照)
- ② 11:15~11:30 面積出し(15分)
- ③ 11:30~13:00 エスキス ⇒1/1000終了時**黄色マーカー**でチェック(下記**チェック②**参照)
- ④ 13:00~14:00 記述
- ⑤ 14:00~17:00 作図
- ⑥ 17:00~17:30 見直し ⇒**赤色マーカー**でチェック(下記「**チェック③**」参照)

# 3章 11:00~11:15課題読みでの赤ボールペン(チェック①)

下記は、平成27年の課題「市街地に建つディサービス付き高齢者向け集合住宅」の研究会が作成した参考課題である(本試験課題はセンターとの許諾条件に基づき無料講座での開示ができない)。これは、研究会参考課題における11:00~11:15の「課題読み」について、赤ボールペンでチェックした例である(イメージとして捉えて頂きたい)。なお、詳細解説は「① 無料講座:5章 2時間エスキス完了法」参照下さい。

2015年6月20日(予備課題確定:建築資格研究会)

## 設計課題 市街地に建つディサービス付き高齢者向け集合住宅(基礎免震構造を採用した建築物である。)

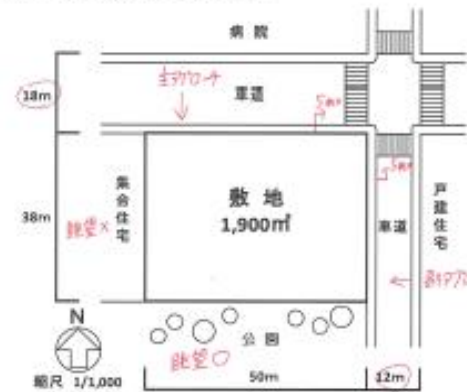
### I. 設計課題

#### I. 設計課題

この課題は、ある地方都市の市街地にディサービス付き高齢者向け集合住宅を計画するものである。この建築物には、地盤の調査を対象としたディサービスを併設し、地盤高齢者のほか、集合住宅の居住者も利用できるようにする。また、設計に当たっては、通所者及び入居者に対して、より良い住環境を提供することに配慮し、明るく開放的な空間となるように計画する。

#### 1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
- 敷地は、平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとする。また、歩道の切り開きは、1級相当の96mまでできるものとする。
- 敷地は、近隣商業地域及び防火地域に指定されている。また、建ぺい率の限度は、(50%)特定行政庁が指定した敷地における算入を含む)、容積率の限度は30%である。  
*1900 x 0.7 = 1330 m<sup>2</sup> 以下*
- 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- 地盤は良好であり、杭打ちの必要はない。



#### 2. 建築費

- 構造・階数等  
構造種別は自由とし、地上5階建ての1棟の建築物とする。
- 床面積の合計  
床面積の合計は、3,400㎡以上、4,000㎡以下とする。  
この数値の床面積の算定においては、ロビー、階段、バルコニー、屋外階段等については床面積に算入しないものとする。
- 要求室  
下表の通り、すべて計画する。

部門	室名	特記事項	床面積
集合住宅部門	*集合住宅部門の住戸A、B、脱衣コーナー、トランクルーム、ランドリーは基準階(3~5階)に計画する。		
	*ディサービス部門の容室は、2階に計画するものとする。		
	*その他の室については、1階又は2階に計画するものとする。		
	住戸A(1人用) (計2戸)	*各階に2戸計画し、室構成はワンルームとする。 *各住戸にバルコニーを設ける。	1戸当たり 約25㎡
	住戸B(2人用) (計6戸)	*各階に2戸計画し、室構成は2LDKとする。 *各住戸にバルコニーを設ける。	1戸当たり 約70㎡
	脱衣コーナー		適宜
	トランクルーム		適宜
	ランドリー		適宜
	食堂・調理室	*30人程度が利用し、テーブル・椅子を設ける。 *ソファ等10人分、畳コーナー12帖を設ける。	適宜
	パントリー	*食費・調理等に備えさせる。 *1階断面からの搬入とする。	適宜
ディサービス部門	スタッフステーション(1)	*相談カウンター、便所を設ける。	適宜
	管理事務室	*4人分の事務スペースを確保する。	適宜
	更衣室(1)	*職員用として男性用、女性用を各1室設ける。	適宜
	フロントホール(1)	*風除室、メールボックスを設ける。 *ミニランドセルコート(2)へアクセスできるようにする。	適宜
	食堂・機動訓練室	*30人程度が利用し、テーブル・椅子を設ける。 *用具倉庫を設ける。 *炊飯150㎡以上を確保し明るく開放的な空間とする。	約150㎡
	厨房	*カウンター、搬入口、前室、食品庫、便所を設ける。 *集合住宅部門の原則を準拠する。	適宜
	浴室	*一般浴(男女兼用)、機械浴室、脱衣室を設ける。 *汚物処理室、便所を設ける。	約160㎡
	計費室		適宜
	相談室		適宜
	事務室	*4人分の事務スペースを確保する。 *受付カウンター、ロッカーを設ける。	適宜
その他部門	更衣室(2)	*職員用として男性用、女性用を各1室設ける。	適宜
	職員休室		適宜
	スタッフステーション(2)	*相談カウンター、便所を設ける。	適宜
	フロントホール(2)	*風除室、下足棚を設ける。	適宜
	喫茶店	*屋外と室内の両方から入室できるようにする。 *カウンター、便所を設ける。	約80㎡
防犯倉庫	*屋外と室内の両方から利用できるようにする。	約40㎡	
*構造及び躯体については適切に計画する。			
*採用した設備計画に応じて、設備機械室(空調、給排水、電気、消火等)、屋外機器置場等を計画する。			
*その他必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。			

#### 3. その他の施設等

- ディサービス部門の食費・機動訓練室(一体的に設置できる居室)を25㎡以上(上部に備置、ひしき等がある部分不算入)を設ける。
- 3階には、直徑90mmの円が入る広さ90㎡以上(上部に備置、ひしき等がある部分不算入)を設ける。
- 駐車場は、地上平面駐車場とし、送迎用(1台当たり3m×6m)として2台分、車いす使用者用として2台分、サービス用として1台分を設ける。なお、施設利用者用、職員用及び入居者用の駐車場は、近隣に設けられて駐車場を利用するものとし、考慮しなくてよい。
- 自転車置場は、集合住宅用として10台分を設ける。
- (1)~(4)の「その他の施設等」は、床面積に算入しないものとする。

#### 4. 計画に当たっての留意事項

- 建築計画については、次の点に留意して計画する。
  - 建築物はバリアフリー、セキュリティ等に配慮する。
  - 集合住宅部門とディサービス部門とを適切にゾーニングし、明快的な動線計画、避難等に配慮する。
  - 高齢者住戸は、採光、日照、通風等に配慮する。
  - 敷地の周辺環境に配慮する。
- 構造計画については、次の点に留意して計画する。
  - 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画するとともに、経済性にも配慮する。
  - 構造種別、架構形式及びメーン梁の位置に留意して計画する。
  - 耐震性に配慮し、基礎免震構造を採用する。
  - 部材の断面寸法を適切に計画する。
- 設備計画については、次の点に留意して計画する。
  - 空調設備、給排水衛生設備、電気設備、消火設備等を適切に設け、環境負荷低減に配慮する。なお、ディサービス部門の給水設備は受水槽方式とする。

### II. 要求図書

答案用紙1及び答案用紙2の定められた枠内(寸法線については枠外でもよい)に、基図集を用いて記入する。

#### 1. 要求図書(答案用紙1)に記入)

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい)、必要な事項を記入する。

図面及び縮尺	特記事項
(1)1階平面図 敷配置図 1/200	① 1階平面図敷配置図及び2階平面図又は基準階平面図には、次のものを表示又は記入する。 イ、建築物の主要寸法(柱間隔及び扉幅等の計算に必要な数値) ロ、車庫等 ハ、要求室の床面積 ニ、設備シャフト【パイプシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)、電気シャフト(EPS)】の位置
(2)2階平面図 1/200	ホ、設備計画に応じた設備スペース ヘ、前室等の切欠位置 ト、要求室の特記事項に記載されている付帯等
(3)基準階平面図 1/200	② 1階平面図敷配置図には、次のものを表示又は記入する。 イ、建築物の出入口 ロ、敷地内の駐車場、駐輪場 ハ、屋外テラス ニ、道路、植栽等 ホ、基礎免震構造のニキスパンションジョイントとなる部分(一点鎖線で表示する。)
(4)新築図 1/250	③ 2階平面図には次のものを表示又は記入する。 イ、1階の壁柱、ひしき等となる部分 ロ、屋上屋根 ④ 基準階には次のものを表示又は記入する。 イ、住戸Aの室名【A1~A8と表示する。】 ロ、住戸Bの室名【B1、B2と表示する。】 ハ、代表的な住戸の室内プラン ニ、前室の最も近い位置から前室階段の一端に近づく階及び付帯部 ホ、住戸の出入口、メーターボックス、PS
	⑤ 断面位置は、住戸を含む、建築物の全体の立体構成がわかる断面とする。なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ⑥ 階層を除く建築物の高さ、階高、天井高、1階床高さ及び主要な室名を記入する。 ⑦ 基礎、壁及びスラブの断面を指示する。

#### 2. 面積集(答案用紙1)に記入)

地上1~6階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。

#### 3. 計画の要点等(答案用紙2)に記入)

- 建築計画について、次の①~③の要点等を具体的に記述する。なお、要求図書では表せない部分についても記述する。
  - 建築物の駐車場及び自転車について、その位置とした理由及び動線計画で工夫したこと
  - ディサービス部門の食堂・機動訓練室及び住宅部門の食堂・調理室について、その位置とした理由及び動線計画で工夫したこと
  - 住宅部門のケアフリー及び女性シェアードについて工夫したこと
- 構造計画について、次の①及び②の要点等を具体的に記述する。なお、要求図書では表せない部分についても記述する。
  - 建築物に採用した構造種別、架構形式及びスパンの位置とこれらを採用した理由
  - 基礎免震構造について配慮したこと
  - スラブ及び柱梁の架け方について工夫したこと
- 設備計画について、次の①~③の要点等を具体的に記述する。なお、要求図書では表せない部分についても記述する。
  - 食堂・機動訓練室と住戸に採用した空調方式と採用した理由
  - 浴室と住戸に採用した給湯方式とその理由
  - 基礎免震構造を採用するに当たり、設備計画で配慮したこと
- 建築物の環境負荷低減(熱負荷低減、省エネルギー等)について配慮したこと  
なお、断面図等において補正してもよい。

# 4章 11:30~13:00エスキスでの黄色マーカー(チェック②)

下記は、11:30~13:00までのエスキス中における1/1000エスキスが完了した段階で、黄色マーカーでのチェックである。この段階では、落ちが無いかだけのチェックで良い。つまり、要求室があるか、諸条件にあっているか等である。ここでチェックしないと、修正が難しくなる。次の1/400エスキス段階で、要求室が抜けているなどに気が付くと、修正に余計な時間を取られ、内容によっては大幅なプラン変更など悲惨な状況となりがねない。従って、1/1000エスキス完了時で、黄色マーカーで全てをチェックする。

2015年8月20日(予備課題編定:建築資格研究会)

## 設計課題 市街地に建つサービス付き高齢者向け集合住宅(基礎免震構造を採用した建築物である。)

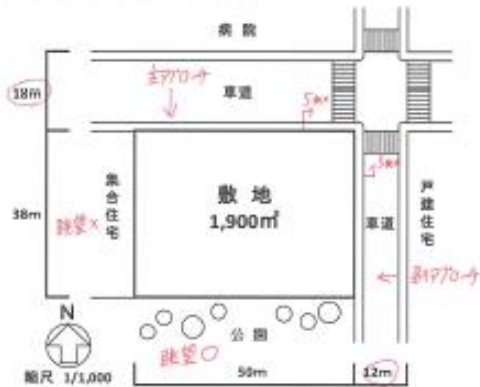
### I. 設計課題

#### I. 設計課題

この課題は、ある地方都市の市街地にサービス付き高齢者向け賃貸集合住宅を計画するものである。この建築物には、地域の高齢者を対象としたデザイン、窓口を設け、地域高齢者のほか、集合住宅の居住者にも利用できるようにする。また、設計に当たっては、高齢者及び入居者に対して、より良い住環境を提供することに配慮し、明るく開放的な空間となるように計画する。

#### 1. 敷地及び周辺条件

- (1) 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
- (2) 敷地は、平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとする。また、歩道の切り替えは、1箇所当たり9mまでできるものとする。
- (3) 敷地は、近隣商業地域及び防火地域に制定されている。また、建ぺい率の制限は、(10%)特許取得済みの指定した敷地における制限を含む。1. 容積率の制限は30%である。→ 1900 x 0.7 = 1330 m<sup>2</sup>以下
- (4) 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- (5) 地盤は良好であり、根打木の必要はない。



#### 2. 建築物

- (1) 構造・階数等  
構造種別は自由とし、地上5階建ての1棟の建築物とする。
- (2) 床面積の合計  
床面積の合計は、3,400㎡以上、4,000㎡以下とする。  
この種類の床面積の算定においては、ピロティ、巻梯、バルコニー、屋外階段等については床面積に算入しないものとする。  
→ 面積 3900㎡
- (3) 専ら室  
下表の如きは、すべて計画する。

部門	変名	特記事項	床面積	
集合住宅部門	集合住宅部門の住戸A、B、談話コーナー、トランクルーム、ランドリ-は基準階(3~5階)に計画する。			
	サービス部門の密着室、2階に計画するものとする。			
	その他の室については、1階又は2階に計画するものとする。			
	住戸A(1人用) (計24戸)	各戸が2戸計画し、室構成はワンルームとする。 各住戸にバルコニーを設ける。	1戸当たり 約24㎡	
	住戸B(2人用) (計16戸)	各戸が2戸計画し、室構成はLDKとする。 各住戸にバルコニーを設ける。	1戸当たり 約30㎡	
	談話コーナー		適宜	
	トランクルーム		適宜	
	ランドリ-		適宜	
	食堂・談話室	30人程度が利用し、テーブル・椅子を設ける。 ソファ等18人分、畳コーナーは軸を設ける。	適宜	
	ロビー	食堂・談話室に隣接させる。 1階階段からの出入口とする。	適宜	
サービス部門	スタッフステーション(1)	相談カウンター、受付を設ける。	適宜	
	管理事務室	4人分の事務スペースを確保する。	適宜	
	更衣室(1)	職員用として男性用、女性用を各1室設ける。	適宜	
	エレベーターホール(1)	図除室、メールボックスを設ける。 エレベーターホール(1)へアクセスできるようにする。	適宜	
	食堂・機能訓練室	30人程度が利用し、テーブル・椅子を設ける。 用具倉庫を設ける。 収容力100人以上を設け明るく開放的な空間とする。	約150㎡	
	調理	カウンター、出入口、前室、食品庫、棟所を設ける。 集合住宅部門の厨房を兼ねる。	適宜	
	浴室	一般浴室(男女兼用)、機能浴室、更衣室を設ける。 汚物処理室、棟所を設ける。	約150㎡	
	静養室		適宜	
	相談室		適宜	
	事務室	4人分の事務スペースを確保する。 受付カウンター、ロッカーを設ける。	適宜	
その他の門地	更衣室(2)	職員用として男性用、女性用を各1室設ける。	適宜	
	職員休憩室		適宜	
	スタッフステーション(2)	相談カウンター、受付を設ける。	適宜	
	エレベーターホール(2)	図除室、手荷物室を設ける。	適宜	
	喫茶店	屋外と室内の両方から入室できるようにする。 カウンター、棟所を設ける。	約90㎡	
	防災倉庫	屋外と室内の両方から利用できるようにする。	約40㎡	
	*電気及び倉庫については適切に計画する。			
	*採用した設備計画に応じて、設備機材(空調、給排水、電気、消火等)、屋外機設備等々を計画する。			
	*その他必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。			

#### 3. その他の施設等

- (1) サービス部門の食堂・機能訓練室と一体的に利用可能な開外テラスを50㎡以上(土間に屋根、ひさし等がある部分不算入)を設ける。
- (2) 1階には、直径6mの円形入居広場50㎡以上(土間に屋根、ひさし等がある部分は算入しない。)を設ける。
- (3) 駐車場は、地上平面駐車とし、送迎用(1台当たり3m x 6m)として2台分、車いす利用者用として2台分、サービス用として1台分を設ける。なお、施設利用者が、職員用及び入居者用の駐車場は、近隣に設けられて駐車場を利用するものとし、考慮しなくてよい。
- (4) 自転車置場は、集合住宅用として10台分を設ける。
- (5) (1)~(4)の「その他の施設等」は、床面積に算入しないものとする。

#### 4. 詳細にわたる設備事項

- (1) 建築計画については、次の点に留意して計画する。
  - ① 建築物はバリアフリー、セキユリティ等に配慮する。
  - ② 集合住宅部門とサービス部門とを適切にゾーニングし、明快な動線計画、道路等に配慮する。
  - ③ 高齢者住戸は、採光、日照、通風等に配慮する。
  - ④ 敷地の周辺環境に配慮する。
- (2) 構造計画については、次の点に留意して計画する。
  - ① 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画するとともに、耐火性に配慮する。
  - ② 構造種別、架構形式及びスパン割りを適切に計画する。
  - ③ 耐震性に配慮し、基礎免震構造を採用する。
  - ④ 部材の断面寸法を適切に計画する。
- (3) 設備計画については、次の点に留意して計画する。
  - ① 空調設備、給排水衛生設備、電気設備、消火設備等を適切に設け、関係負責技師に配慮する。なお、サービス部門の給水設備は受水槽方式とする。

### II. 要求図書

答案用紙Ⅰ及び答案用紙Ⅱの定められた枠内(手書きについては枠外でもよい)に、原図等を記入する。

#### 1. 要求図書(答案用紙Ⅰ)に記入)

下記により、指定の図面を作成し(フリーハンドでもよい)、必要な事項を記入する。

図面及び縮尺	特記事項
(1) 1階平面図 縮尺 1/200	① 1階平面図(基礎階)及び2階平面図又は基準階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の主要寸法(柱間及び柱間隔の計算に必要な種別) ロ. 室名等 ハ. 要求室の床面積 ニ. 設備シャフト(パイプシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)、電気シャフト(EPS))の位置
(2) 2階平面図 1/200	① 設備計画に記した設備スペースへ、新設図の切捨位置 ト. 要求室の特記事項に記載されている仕様等
(3) 基礎階平面図 1/200	① 1階平面図(基礎階)には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の出入口 ロ. 敷地内の駐車場、柱軸線 ハ. 屋外テラス ニ. 道路、植栽等 ホ. 基礎免震構造のキスス/ランションジョイントとなる部分(一点線等で図示する。)
(4) 断面図 1/200	① 2階平面図には次のものを図示又は記入する。 イ. 1階の屋根、ひさし等となる部分 ロ. 屋上屋根 ② 基礎階には次のものを図示又は記入する。 イ. 住戸Aの室名(A1~A8と表示する。) ロ. 住戸Bの室名(B1、B2と表示する。) ハ. 代表的な住戸の室内プラン ニ. 居室の最も深い位置から階層階段の階に準ずる歩行階及び植栽 ホ. 各住戸の出入口、メーカーボックス、PS
(4) 断面図 1/200	① 断面位置は、住戸を言い、建築物の全体の立体構成に付かる断面とする。なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 階層を除く建築物の高さ、階高、天井高、1階床高及び土室高等を記入する。 ③ 基礎、梁及びスラブの断面を図示する。

#### 2. 面積表(答案用紙Ⅰ)に記入)

地上1~5階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。

#### 3. 計画の要点等(答案用紙Ⅱ)に記入)

- (1) 建築計画について、表の①~④の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では書かない部分についても記述する。
  - ① 建築物の「駐車及び車寄せ」について、その位置とした理由及び動線計画で工夫したこと
  - ② サービス部門の「食堂・機能訓練室」及び住宅部門の「食堂・談話室」について、その位置とした理由及び動線計画で工夫したこと
  - ③ 住宅部門の「バリアフリー」及び「セキユリティ」について工夫したこと
- (2) 構造計画について、表の①及び②の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では書かない部分についても記述する。
  - ① 建築物に採用した「構造種別、架構形式及びスパン割り」をそれぞれ採用した理由
  - ② 基礎免震構造について記述したこと
  - ③ スラブ及び柱の架け方について工夫したこと
- (3) 設備計画について、表の①~④の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では書かない部分についても記述する。
  - ① 食堂・機能訓練室と住戸に採用した「空調方式」を採用した理由
  - ② 浴室と住戸に採用した「給湯方式」その理由
  - ③ 基礎免震構造を採用することにより、設備計画で配慮したこと
- (4) 建築物の「敷地敷設長減(敷地敷設長、省エネルギー型)」について記述したこと  
なお、新設図等において記述してもよい

# 5章 17:00~17:30見直しでの赤色マーカー(チェック③)

下記は、17:00~17:30までの最終見直しにおける赤色マーカーでのチェックである。作図完了後(17:00頃想定)は、第一に赤色マーカーで課題文との整合性をチェックをする。最終確認なので、図面と照らし合わせて要求室(名称、指定面積を確認含む)、各種諸条件、関連条件など全てについて、黄色マーカーの上から赤色マーカーをし確認する(この確認だけでも15分程度かかる、意外に書き忘れが見つかる、その後の時間は図面チェック・・・最後の見直しは合計30分ないと修正しきれない)。

2016年9月20日(予備課題確認:建築資格研究会)

## 設計課題 市街地に建つサービス付き高齢者向け集合住宅(基礎免震構造を採用した建築物である。)

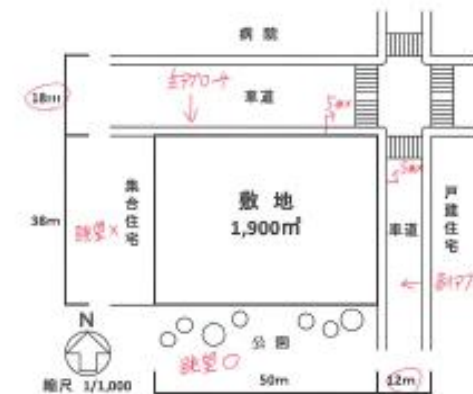
### I. 設計課題

#### I. 設計課題

この課題は、ある地方都市の市街地にサービス付き高齢者向け賃貸集合住宅を計画するものである。この建築物には、地域の高齢者を対象としたサービスを併設し、高齢者向けの集合住宅の居住性も活用できるものとする。また、設計にあたっては、通所者及び入居者に対して、より良い住環境を確保することに配慮し、明るく開放的な空間となるように計画する。

#### 1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
- 敷地は、平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとする。また、歩道の切り替えは、1箇所当たり6mまでできるものとする。
- 敷地は、近隣商業地域及び準防火地域に指定されている。また、建ぺい率の限度は、70%(特定行政庁が指定した角地に20%加算を含む)、容積率の限度は300%である。→ 1900㎡×0.7=1330㎡以上
- 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- 地盤は良好であり、杭打りの必要はない。



#### 2. 建築物

- 構造・階数等  
構造階数は自由とし、地上5階建ての1棟の建築物とする。
- 床面積の合計  
床面積の合計は、3,400㎡以上、4,000㎡以下とする。  
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、階段、バルコニー、屋外階段等については床面積に算入しないものとする。
- 要配慮  
下表の室は、すべて計画する。

部門	室名	特記事項	床面積
集合住宅部門	集合住宅部門の出入口A、B、脱出コーナー、トランスルーム、ランドリールームは基準階(3~5階)に計画する。		
	サービス部門の前面は、2階に計画するものとする。		
	その他の室については、1階又は2階に計画するものとする。		
	住戸A(1人用) (計4戸)	各階に2戸計画し、車庫は2ワンルームとする。 各住戸にバルコニーを設ける。	1戸当たり 約35㎡
	住戸B(2人用) (計4戸)	各階に2戸計画し、車庫は2LDKとする。 各住戸にバルコニーを設ける。	1戸当たり 約70㎡
	脱出コーナー		適宜
	トランスルーム		適宜
	ランドリールーム		適宜
	食堂・調理室	30人程度が利用し、テーブル・椅子を設ける。 カウンター10人分、壁コーナー2箇所を設ける。	適宜
	エントラー	食堂・調理室に隣接させる。 1階専用からの導入とする。	適宜
サービス部門	相談カウンター(計2)	相談カウンター、接所を設ける。	適宜
	管理事務室	4人分の事務スペースを確保する。	適宜
	更衣室(1)	職員用として男性用、女性用を各1室設ける。	適宜
	エンタランスホール(1)	風除室、メールボックスを設ける。 ミニトランスホール(2)にてアクセスできるようにする。	適宜
	食堂・機密会議室	30人程度が利用し、テーブル・椅子を設ける。 見立倉庫を設ける。 吹き抜け50㎡以上を設け明るく開放的な空間とする。	約150㎡
	厨房	カウンター、出入口、食卓、食器室、便所を設ける。 集合住宅部門の厨房を併用する。	適宜
	浴室	1~2階併用(男女兼用)、機械浴槽、観音浴を設ける。 収納物置き場、便所を設ける。	約100㎡
	待合室		適宜
	相談室		適宜
	事務室	4人分の事務スペースを確保する。 受付カウンター、ロッカーを設ける。	適宜
その他	更衣室(2)	職員用として男性用、女性用を各1室設ける。	適宜
	屋外休憩室		適宜
	スチールラウンジ(2)	相談カウンター、接所を設ける。	適宜
	エンタランスホール(2)	風除室、下足置きを設ける。	適宜
	機密会議室	屋外と室内の両方から入室できるようにする。 カウンター、便所を設ける。	約40㎡
機密会議室	屋外と室内の両方から利用できるようにする。	約40㎡	
*風雨及び音源については適切に計画する。			
*採用した設備計画に応じて、設備計画(空調、給排水、電気、消火等)、屋外機置設備等を計画する。			
*その他必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。			

#### 3. その他の施設等

- サービス部門の食堂・機密会議室は一体的にも利用できる。機械アス入る50㎡以上(上部に屋根、ひさし等がある部分は算入しない。)を設ける。
- 1階には、高さ6mの門が出入る広場50㎡以上(上部に屋根、ひさし等がある部分は算入しない。)を設ける。
- 駐車場は、地上平面駐車場とし、各20坪(1台当たり20m×6m)として20台分、車いす利用者用として20台分、サービス用として10台分を設ける。なお、施設利用者用、職員用及び入居者用の駐車場は、近隣に設けられて駐車場を利用するものとし、考慮しなくてよい。
- 自転車置場は、集合住宅として10台分を設ける。
- ①~④の「その他の施設等」は、床面積に算入しないものとする。

#### 4. 計画にあたっての留意事項

- 建築計画については、次の点に留意して計画する。
  - 建築物は、バリアフリー、ユニバーサル等に対応する。
  - 集合住宅部門とサービス部門とを適切にゾーニングし、明快な動線計画、避難等に配慮する。
  - 高齢者住戸は、採光、日照、通風等に配慮する。
  - 敷地の周辺環境に配慮する。
- 構造計画については、次の点に留意して計画する。
  - 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画するとともに、経済性にも配慮する。
  - 構造種別、架構形式及びスパン割りを適切に計画する。
  - 耐震性を配慮し、基礎免震構造を採用する。
  - 部材の断面寸法を適切に計画する。
- 設備計画については、次の点に留意して計画する。
  - 空調設備、給排水衛生設備、電気設備、消火設備等を適切に設け、環境負荷低減に配慮する。なお、サービス部門の給水設備は受水方式とする。

### II. 要求図書

答案用紙及び答案用紙の定められた枠内(寸法については特例でもよい)に、基礎書を用いて記入する。

#### 1. 要求図書(答案用紙Ⅰに記入)

下表より、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい)、必要な事項を記入する。

図面及び縮尺	特記事項
(1)1階平面図 縮尺1/200	① 1階平面図敷設位置図及び2階平面図又は基準階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ、建築物の主要寸法(階高及び床面積の計算に必要な数値) ロ、室名等 ハ、要配慮の床面積 ニ、設備シヤフト(パイプシャフト)〔PS〕、ダクトスペース〔DS〕、電気シヤフト〔EPS〕の位置 ホ、設備計画に当たって設備スペース ヘ、新設窓の取付位置 ト、要配慮の特記事項に記載されている仕様等
(2)2階平面図 縮尺1/200	② 2階平面図には次のものを図示又は記入する。 イ、1階の階高、ひさし等となる部分 ロ、地上設備
(3)基準階平面図 縮尺1/200	③ 基準階には次のものを図示又は記入する。 イ、住戸Aの室名(A3~A8と表示する。) ロ、住戸Bの室名(B1、B2と表示する。) ハ、代表的な住戸の室内プラン ニ、指定の最も広い位置から避難経路の一に至る歩行距離及び経路 ホ、各住戸の出入口、カーナーボックス、PS
(4)断面図 縮尺1/200	④ 断面図には、住戸を含み、建築物の全体の立体構成がわかる断面とする。なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ⑤ 軒長を除く建築物の高さ、階高、天井高、1階床高及び主要な室等を記入する。 ⑥ 基礎、梁及びスラブの断面を明示する。

#### 2. 面積表(答案用紙Ⅱに記入)

地上1~6階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。

#### 3. 計画の要点等(答案用紙Ⅲに記入)

- 建築計画について、次の①~③の要点等を具体的に記述する。なお、断面図面では表せない部分についても記述する。
  - 建築物の構造種別、架構形式及びスパン割りについて、その位置とした理由及び動線計画で工夫したこと
  - サービス部門の食堂・機密会議室及び住宅部門の食堂・機密会議室について、その位置とした理由及び動線計画で工夫したこと
  - 住宅部門のバリアフリー及びユニバーサルについて工夫したこと
- 構造計画について、次の①及び②の要点等を具体的に記述する。なお、断面図面では表せない部分についても記述する。
  - 建築物に採用した構造種別、架構形式及びスパン割りこれらを採用した理由
  - 基礎免震構造について記述したこと
  - スラブ及び柱梁の梁の接合部について工夫したこと
- 設備計画について、次の①~③の要点等を具体的に記述する。なお、要配慮図面では表せない部分についても記述する。
  - 食堂・機密会議室と住戸に採用した空調方式を採用した理由
  - 浴室に採用した給湯方式とその理由
  - 基礎免震構造を採用した際の、設備計画で配慮したこと
- 建築物の環境負荷低減(省エネルギー等)について記述したこと  
なお、断面図面において記述してもよい。